

令和元年度

第2回 学校評議員会の実施報告

ホームページへの掲載	
済・未	1月16日掲載

岐阜県立羽島特別支援学校

校長 奥村 哲也

所在地 羽島市正木町大浦230-1 TEL 058-392-8181

1 会議の名称 岐阜県立羽島特別支援学校評議員会

2 会議の構成

委員 (五十音順・敬称略)

味岡 巖	大浦区長
川合 宗次	岐阜羽島ボランティア協会 事務局長
小川 圭三	羽島体育協会 事務局長
豊島 裕香	羽島市主任児童委員
日比野 さゆみ	PTA会長

学校職員

奥村 哲也	校長
高山 務	教頭
後藤 聡徳	事務長
不破 明美	小学部主事
鷺野 恵一	中学部主事
水野 裕子	高等部主事

3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者等から幅広く意見を求め、充実した教育活動を展開するとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することを目的とする。

4 会議の開催 日時：令和元年12月7日(土) 14時30分～15時45分
場所：羽島特別支援学校 校長室
出席者：委員3人 学校職員6人 (欠席者：味岡委員、小川委員)

5 会議の概要 (1) 校長挨拶
(2) 学校祭について
(3) 今年度の教育活動について(各部より)

- (4) 生徒及び保護者、学校評議員を対象としたアンケートについて
- (5) 次年度に向けて
- (6) 評議(ご意見等)
- (7) 校長挨拶

(1) 校長挨拶

学校祭をご覧いただきお礼を申し上げます。また、当校は地域の皆様に支えられており、温かく見守られ応援していただいていることに感謝申し上げます。今年度の反省点など率直なご意見をお伺いして、次年度の学校祭や学校運営等に生かしたいと思えます。

(2) 学校祭についての感想等

<委員1>

- ・二日目の学校祭を見せてもらったが、多くの方に来ていただいてとても盛況であった。昨年度の反省で休憩所を設けてもらったが、それでもロータスカフェ待ちの人が多く30人程の列ができていた。
- ロータスカフェの収容人数と接客できる生徒数にも限界がある。休憩所のスペースを活用し、待合室として休憩室の増設などを次年度に向けて検討していきたい。

<委員2>

- ・昨年の反省点を踏まえて、今回は早めに来て見学をしたが、PTAのバザーや作業発表、販売活動、イベント等があったとても楽しい学校祭であった。特に、児童生徒たちが生き生きと楽しそうに参加している姿を見ることができ感動した。また、実演販売や作業製品の説明やコメント、生徒の生の声が聞けて良かった。

<委員3>

- ・PTAの弁当販売については、昨年度の反省点を踏まえ、現金による直接販売から今年度はチケット制に変更して円滑にできたが、広報活動についてはやや改善する余地がある。
- チケット販売と弁当の受取り時間をずらすことによって滞りなくできたが、チケット販売場所については昼食会場の体育館ではなく1階の受付付近にした方がよいのかもしれない。

<事務部>

- ・駐車場については、近隣のスペースを借りることができたことやボランティアの方々の協力により想定していたほど混雑することなくスムーズに駐車案内ができた。

<小学部>

- ・一日目はこれまでの学習成果をステージで堂々と発表することができた。以前は体育館に入ることができなかった児童もいたが、本年度は全員がそれぞれ臆することなく体育館のステージに立つことができた。二日目は読み聞かせや音遊び、ボウリング、迷路等の小学部活動を行い、笑顔いっぱいの時間を過ごした。そして、その楽しい活動の中で、読み聞かせグループや音楽療法の方たち、高校生といったボランティアのみなさんとの温かな交流をもつこともできた。

<中学部>

- ・学校祭の練習や準備は、運動会が終わってから本格的に始めてきたが、体調管理も含めて全員参加を目標に取り組んできた。初日のステージ発表では全員が参加することができ、達成感を

味わうことができた。二日目の作業発表では盛況の裡に完売できたことに対して、生徒らはとても喜んでおり充実感を味わうとともに働くことの大切さや楽しさを体感できた。

<高等部>

- ・10月末の現場実習、作業実習後に本格的な準備に入った。1年生は一人ひとりの個性を生かした発表、2・3年生は、さらに保護者や自分の周囲の人々への感謝の思いを伝える発表であった。重複クラスの生徒もそれぞれの学年に入り一緒に活動することができた。二日目の作業発表では、食品加工班のトラブルもあったが、生徒一人一人が自分の役割をしっかりと果たすことができていた。

<委員2>

- ・学校祭だけの販売活動だけでなく、アンテナショップや卒業生が関わりながら販売活動ができるような場所を提供できるとよいのではないか。
- 定期的にカラフルタウンでの販売活動をしている。毎週水曜日に開催しているロータスカフェの時にもロータスマーケットと称して販売している。

<委員1>

- ・アンテナショップについては、以前貴校に案内したことがあるが、可能であれば活用してはどうか。そこで、注文販売もできるかもしれない。

<校長>

- ・本日は想定外の機器によるトラブルはあったものの、全般的には児童生徒たちの輝く姿があって気持ちの良い学校祭になった。何より地域の方々の理解と関心が非常に高いということを痛感した。閉会式でも申し上げたが、学校祭でこれだけ盛り上げることができたのだから、このことを次のステージにつなげられるとよい。例えば、高等部に関することでいえば進路指導や事業所等との関係、将来的には社会参加や共生につなげていきたいと考える。

(3) 今年度の教育活動について (各部より)

○小学部主事より

- ・全児童が集う小学部集会と、学級が異なる同学年児童たちが集う学年集会をそれぞれに毎月行っている。誕生日を祝ったり、ゲームを楽しんだりして、ふれあいを大切にした学部内交流や同学年交流を積極的に行っている。
- ・近隣の正木小学校4年生児童たちと学校間交流を行い、楽しく交流の時間を過ごすことができた。4クラスある正木小学校の児童たちが2グループに分かれ、それぞれに2度来校し、両校にとって実りのある交流となった。
- ・居住地校交流では、全児童の約8割が直接交流を行い、互いの児童が刺激を受けている。ロータスカフェに来校した支援学級の友だちと一緒にジュースを飲み、本校児童が校内を案内した交流もあった。来年度も有意義な居住地校交流を推進していきたい。

○中学部主事より

- ・中学部の3年間は小学部等と高等部等への橋渡しの貴重な期間として、できることを増やし自立への方向性を高めていけるよう機会を捉えて取り組んでいる。特に、今年度は学年の活動だけでなく縦割り活動を多く取り入れ、上級生と下級生との関わり合える時間を重要視している。今年の学校祭でも互いに接する中で主体的に取り組めるような活動に重点を置いてきた。
- ・羽島中学校との学校間交流では、今年度は昨年度より交流回数を増やし、内容的にも充実したものを実施している。夏季休業前には羽島中学校の職員の方に当校を見学してもらい、職員の

交流も行うことができた。この交流の体制を次年度にも継続することで、生徒同士が同地域・同世代で生活する仲間としての意識等を高めていきたい。

○高等部主事より

- ・平成30年度の卒業生の進路状況は、38%が一般就労、7%が就労移行、55%が福祉就労であった。今年度の3年生は、20%が一般就労、8%が就労移行、72%が福祉就労を希望している。一般就労ではトヨタ紡織とイオン柳津店から内定をいただいている。どちらの企業も学校祭に来校いただいております、今後とも地域とのつながりを大切にしたい。
- ・現場実習、作業実習、日々の作業学習など様々な機会を通して生徒の力を育てていきたい。

(4) 生徒及び保護者、学校評議員を対象としたアンケート結果について 別紙1, 2

A『よくあてはまる』、B『ややあてはまる』、C『あまりあてはまらない』、D『まったくあてはまらない』、E『わからない』

→ どの設問においてもAとBを合わせた回答が80%を超えており全体的に良好である。

〔生徒〕・設問2については、AとBを合わせて90%を超えている。

- ・設問15の『毎日学校に行くのが楽しい』でCとDを回答した生徒は約13%である。割合は昨年度と同傾向であるが、今年度は1年生に多い。昨年度に多かった2年生は解消されたが、1年生に対して今後どのように解消していくかが課題である。

→ 詳細について確認し、生徒へのアプローチや支援方法を具体的に検討したい。

- ・設問11、12ではCDの回答者が若干名いる。

→ 設問の意味が分からず回答している生徒もいるが、詳細を早急に確認して適切な対応をしたい。

〔保護者〕・設問9、10、16、31についてとても良い評価を得ている。

- ・設問24、25、28については、昨年度と同様で『わからない』と回答する保護者が20%強となり、情報発信の工夫や方法等の改善が必要である。

(5) 次年度に向けて

資料より説明

(6) ご意見等

<委員1>

- ・障がい者の潜在能力には驚かされることが少なくない。特に集中力や持続力については健常者よりかなり高い人がいる。その能力を最大限に活かせるような環境を整えていくとよい。趣味や特技を活かしてコンテスト等に参加することで、さらにやる気が出てモチベーションを高め相乗効果が生まれることもある。また、近隣の高校へ出かけて交流を深めることで、新たな発見があったり互いのことが分かり合えたりして、福祉に興味や関心を持つことに繋がる場合もある。このような良いきっかけ作りが学校内でもできるとよい。

<委員2>

- ・事業所紹介コーナーでは、多くの企業や事業所の紹介等やテナントがあった。現場実習後の企業や事業所との連携はどうなっているのか。

→当校は4年目であるが、夏季休業中に職場開拓をしており今年度は昨年度より1.2倍の件に広がっている。現場実習後の就労に繋げている企業もあるが、現場実習だけなら受け入れてもよいという企業も少なくない。今後は障がい者雇用についても門戸が少しずつ開きつつあるので期待しているが、依存的な立ち位置では通用しない。現場のニーズにこたえられるような集中力や忍耐力などを身に付け、選択肢が広げられるような人材育成に取り組んでいる。

<委員3>

- ・学校で子供の姿を見る機会を増やしてもらいたい。例えば、授業参観のようなものをもっと組み入れてもらえると親子の触れ合う時間が持てる。あるいは、子供の友人関係等の様子もわかって話題作りができる。
- 以前勤務した学校では、作業学習など親子で取り組んだ授業参観をした経験がある。当校では、ふるさと教育週間として11月中旬に授業参観を計画した。小学部の参観者は多かったが、その他はそれほどではなかった。授業参観については計画しているものの、保護者へのアナウンスについて改善する必要があるのかもしれない。

(7) 校長挨拶

本日は誠に貴重なご意見を多数いただきありがとうございます。家庭と学校の協同について工夫の余地があることを再確認しました。小学部は児童に寄り添い、中学部は縦割りにすることで集団としての成長を育むとしているが、高等部の教育課程については学校の裁量が最も工夫できるところであり、今回いただいたご意見を参考にし、前向きに検討していきたいと思えます。次年度の学校運営に向けてエールをいただいたことに深く感謝申し上げます。